

| 平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス  |                    |     |  |     |      |
|--|--------------------|-----|--|-----|------|
| 教科目名   | 社会倫理学特論            |     | 担当教員   | 空健太 |      |
| 学年学科   | 専攻科 2 年次           | 全専攻 | 前期   | 必修  | 2 単位 |
| 学習・教育目標  | (A-1)40%, (A-2)60% |     | JABEE 基準 1 (1): (a) (b) (f)  |     |      |
| <b>授業の目標と期待される効果：</b><br>科学技術の発展が著しい現代社会では、我々は便利な反面多くの危険と隣り合わせになっている。技術の実践に関わる者は、専門的知識や技術だけでなく、社会的な通念・常識についての洞察および専門職としての倫理的判断能力が求められる。<br>本授業では、多様な価値観を背景に成立している現代社会の特質について考察し、考えられる倫理的判断や求められている倫理的判断について学ぶ。そして様々な具体的な問題事例を分析していくことにより、技術者として望まれる認識・判断力形成、資質育成を目指す。<br>(1) 現代社会の倫理的課題の考察を通じた価値葛藤の把握<br>(2) 技術者倫理の意味、必要性、関連する倫理的課題の概要、対立構造の理解<br>(3) 倫理的課題に対する、市民および技術者としての意思決定、およびその根拠の説明<br>(4) 実践の場で生かそうとする態度の涵養 |                    |     | <b>成績評価の方法：</b><br>期末試験 200 点 + 課題提出 200 点<br>とし、総得点率 (%) によって成績評価を行なう。<br>試験は 100 点分は技術者としての倫理に関する選択問題を、100 点分は論述問題を課す。課題は教室外学修の中で取り組んだ成果を評価するものとする [課題 1 ~ 課題 11]。   |     |      |
|  |                    |     | <b>達成度評価の基準：</b><br>以下に示す要素について総合点の 60% 以上まで達していることが必要。<br>① 現代社会における倫理的課題について、わが国や諸外国の事例を取り上げ、その背景や原因を指摘し、複数の観点から問題を整理することができる<br>② 技術者倫理に関する課題の背景、内容、対策について、適する具体的事例を用いて論理的に叙述することができる<br>③ 技術者としての専門的見地から、望ましい倫理的判断を論理的・説得的に提示することができる<br>④ 技術者としての倫理の内実と重要性を論理的に説明するとともに、実践上 (研究活動の場など) において実践することができる |     |      |
| <b>授業の進め方とアドバイス：</b> 授業は講義と演習を併用する。講義は、倫理思想や最近の事件などを取り上げ、技術者倫理に関わる基本的な概念や事実を確認し、演習で考察するための手立てを獲得することを目的とする。演習は、具体的な事例分析を行い事例の分析を通して、問題を分析する力や倫理的な判断について考察するとともに、どのようにして合意を形成するかということ学ぶ。また、教室外学習として課題に取り組むことを要求する。  |                    |     |  |     |      |
| <b>教科書および参考書：</b> 齊藤了文・坂下浩司編『はじめての工学倫理 第 2 版』(昭和堂, 2005 年) を利用する。必要に応じてプリントや VTR を用いる。参考文献として、新田孝彦ほか編『科学技術倫理を学ぶ人のために』(世界思想社, 2005 年)。参考文献は他にも授業の中で随時紹介する。  |                    |     |  |     |      |
| <b>授業の概要と予定：前期</b>   |                    |     | <b>教室外学修</b>   |     |      |
| 第 1 回：イントロダクション  |                    |     | 「技術者倫理」とは何か、なぜ必要なのか等について、現時点での自分の考えを整理する [課題 1]  |     |      |
| 第 2 回：現代社会と倫理思想(1)   |                    |     | 倫理的概念にもとづいて、倫理的な“よさ”における対立状況を説明する [課題 2]   |     |      |
| 第 3 回：現代社会と倫理思想(2)   |                    |     | 倫理的概念にもとづいて、倫理的な“よさ”における対立状況を説明する [課題 2]   |     |      |
| 第 4 回：望ましい技術者とは何か：技術者倫理への見方の検討   |                    |     | 現代の技術者を取り囲む社会的状況について整理する [課題 3]  |     |      |
| 第 5 回：技術者の倫理と判断(1)：製造物責任法  |                    |     | 事例について 2 つ以上調べ、それらから見出される関連性や共通性について考察する [課題 4]  |     |      |
| 第 6 回：技術者の倫理と判断(2)：知的財産権   |                    |     | 知的財産権に関するセミナーや講演を聴講する。   |     |      |
| 第 7 回：技術者の倫理と判断(3)：倫理綱領  |                    |     | 各自の所属する研究室の私家版倫理規定や具体的な活動規範を作成 [課題 5]、実践する [課題 11]   |     |      |
| 第 8 回：事例分析の方法と準備   |                    |     | 第 9 ~ 11 回で取り扱う事例の予習   |     |      |
| 第 9 回：ケーススタディ(1)：事例分析① (発表× 2 組)   |                    |     | 取り上げた事例の倫理的問題の背景・原因・解決案や教訓などについて整理する [課題 6]  |     |      |
| 第 10 回：ケーススタディ(2)：事例分析② (発表× 2 組)  |                    |     | 取り上げた事例における倫理的問題の背景・原因・解決案や教訓などについて整理する [課題 7]   |     |      |
| 第 11 回：ケーススタディ(3)：事例分析③ (発表× 2 組)  |                    |     | 取り上げた事例における倫理的問題の背景・原因・解決案や教訓などについて整理する [課題 8]   |     |      |
| 第 12 回：仮想問題事例における意思決定(1)：個人  |                    |     | VTR を視聴し、自らの倫理的判断にもとづく意思決定などを整理し、全体討論の準備を行う  |     |      |
| 第 13 回：仮想問題事例における意思決定(2)：グループ討議  |                    |     | 望ましい意思決定についてグループ討議をふまえて整理する [課題 9]   |     |      |
| 第 14 回：仮想問題事例における合意形成(1)：グループ討議  |                    |     | VTR を視聴し、自らの倫理的判断にもとづく意思決定などを整理し、全体討論の準備を行う  |     |      |
| 第 15 回：仮想問題事例における合意形成(2)：全体討議  |                    |     | 討議を踏まえて、望ましい技術者の意思決定についての内容と方法について整理する [課題 10]   |     |      |
| 期末試験   |                    |     | —  |     |      |
| 第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)  |                    |     | 「技術者倫理」とは何か、なぜ必要なのか等について、講義を通しての自分の考えを整理する   |     |      |